

左手平屋は玄関とホールで、外壁は黒塗
装の杉板張りに切妻屋根。奇棟の2階屋
は土壁を思わせる辛子色ブラスター塗り。



15 家具と照明の名作をラインアップした 吹き抜けが中心のモダンハウス

徳島県徳島市・末廣勝氏邸 設計・富田真二

① 2階屋の開口を正面に見た夕景。1階居間から斜めに
デッキが張り出し、内外空間を一体的に使えるよう図ら
れている。

② 階段室から吹き抜けとブレールームとのつながりを見
る。2階のパブリック空間として多目的に使える。ソフ
アはカサブランカシリーズ。

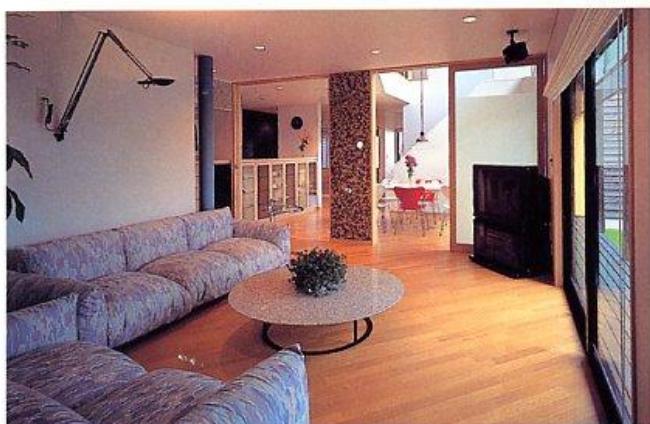
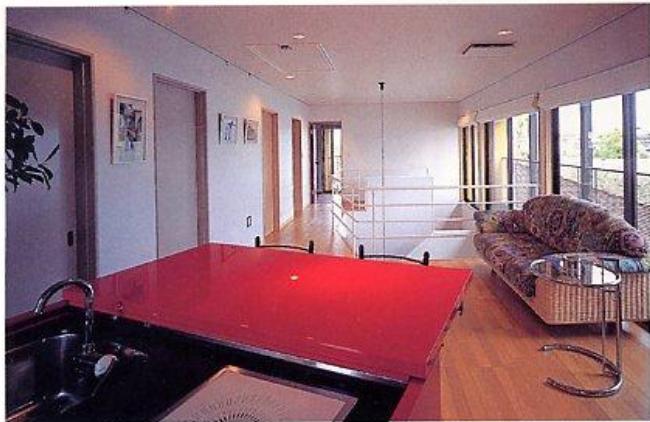
③ ブレールームから吹き抜けを通して階段室を見返す。
オープンなくつろぎ空間でセカンドリビングでもある。

④ 居間からDKに向て。モザイクタイル張り壁、柱の
左手には引き込み戸が納めてあり、適宜仕切ることがで
きる。家具はアルフレックス社製。





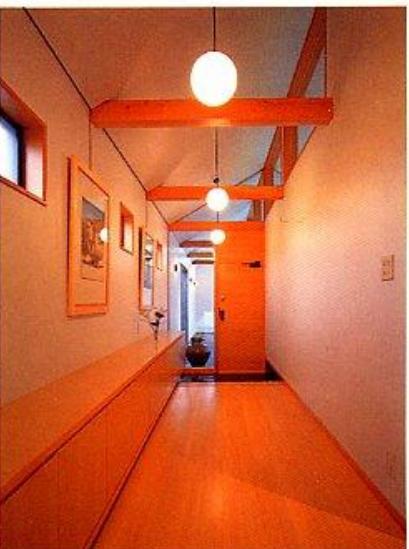
階段と食堂から居間方向を見返す。1階高さの天井から吹き抜けへドラマチックに空間が展開するスペース。照明はイタリアのフロス社製。



空間を生かすも殺すも家具次第

住まいは、外観や空間が最も重要視されるが、家具もまた居住感に大きな影響を与える。見た目の色や形もそうだが、いすなどは使い心地が直接身体に響いてくるので、くれぐれも慎重に選ぶことだ。家具ショップには国産、輸入ものと含めて数多くのブランド品が展示されている。洋風か和風かなど、住宅デザインにふさわしい家具をセットすることで、空間が一層引き立つことになる。

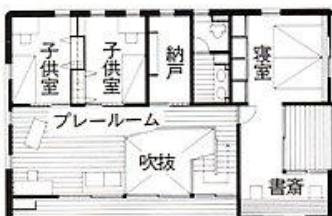
余談だが、建築写真を仕事としている筆者は、空間を生かすか殺すかは、ひとえに家具にかかっているように思える。せっかく新邸を撮りに行つたのに、古い家具やデザインの貧しい家具が入っていると、とたんに写す意欲をなくしてしまう。



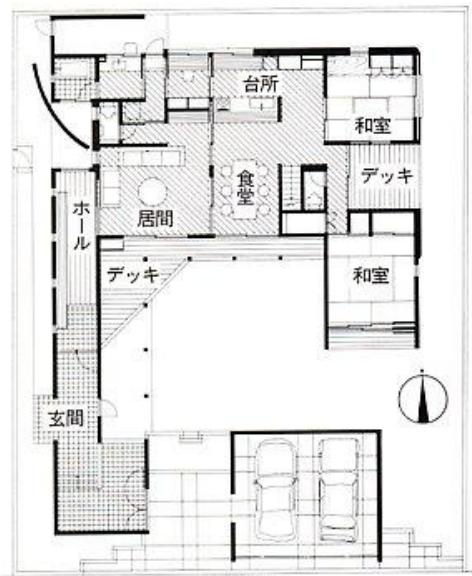
ホールから玄関に向かって南北に長いギャラリー風空間として和風にしつらえてある。梁が上部のアクセントに利いている。



リビングでの末廣さん家族。ご主人はカラオケ自慢、2人のお嬢さんもそれぞれ演奏が得意の音楽一家である。



2階平面図



1階平面図

ンハウスの典型である。

建主・末廣勝氏(41)は、土木の設計技師で、家族は生命保険会社に勤める寿美子夫人(40)に長女・麻里さん(16)、二女・仁美さん(14)との4人暮らし。娘さん達はそれぞれピアノを好んだり、地元の少年少女合唱団に属しており、末廣氏もカラオケ自慢といった風に音楽を趣味とする明るい一家だ。

家づくりにあたっては、同じ建設関連のプロとしての厳しい目で人選にあたり、建築家・富田真二氏に設計を、そして家具も同氏と相談しながら好みのデザインのものを丹念に選んだ。

車庫棟で中庭を挟んだ「の字形住宅

敷地は徳島市の北東部に位置し、JR徳島駅から5キロほど、吉野川大橋を渡つあたりにある。近くには「ととさんの名は……」の浄瑠璃おなじみの、阿波十郎兵衛屋敷が残っている。20年ほど前に区画分譲された富吉団地に隣接しているが、周囲には特産のレンコン畑などがそこそこに見られる閑静な住宅地である。南

北に長い矩形の敷地で、南、西、北の三方が道路に接している。地形の特徴を生かし、横に延

びるおおらかな外観が建主の要望だった。それをよろい張りとし、鋼板の屋根を段葺きに横線を強調したことでかなえられている。

建物は全体が南側を向いたコの字プランで、南の車庫棟で囲われたプライバシー性の高い中庭がポイント。西入り玄関からギャラリー風のホールを通りLDKに出る。居間と食堂とは引き込み扉で仕切ることができるが、食堂の上部は吹き抜けしており、1、2階の一体感が図られている。2階の南西面はブレールームとなっているが、ここと1階のLDK空間は、世界のグッズデザインの家具や照明器具で占められており、さながらモデルルームを見るようだ。

寿美子夫人は、

「富田さん設計の住宅は、どれも家族のコミュニケーションがとりやすいことからお願いしました。パブリック、個室ともデザインされた家具や小物の中で過ごしたいと思い、吟味して選びました。対面式キッチンはとても快適です」。

所在地●徳島県徳島市

家族構成●夫婦+子供2人

設計●富田建築設計室・富田真二

施工●株アズマ建設

竣工●1992年4月

敷地面積●449.90m² (136.09坪)

延床面積●227.10m² (68.69坪)

1階面積●135.47m² (40.97坪)

2階面積●91.63m² (27.72坪)

車庫面積●33.13m² (10.02坪)

構造●木造2階建